

【群馬県】  
校務 DX 計画

① 校務 DX の現状と課題

令和 6 年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、校内での資料共有・情報共有のデジタル化は、汎用クラウドツールの活用等により、9 割の学校が半分以上デジタル化を取り入れている。一方で欠席連絡など、保護者との連絡は、半分以上デジタル化している学校が、5 割にとどまっており改善の余地がある。

また、FAX や押印の廃止は一部の学校で進められているが、依然として紙ベースの業務が根強く残っている。

② 校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

学校ネットワークについて、現状は校務系と学習系でネットワークが分離されているため、教職員が複数の端末を使用して業務を行う必要がある。令和 10 年度の校務系・学習系ネットワークの契約期間満了に際しては、ネットワーク統合の検討を行い、教職員の負担軽減やデータ連携・データ活用が可能な基盤の構築を目指す。

また、県立学校（義務教育段階）では、令和 7 年度から独自に導入した校務支援システムの運用を予定している。令和 12 年度の次期システム更改では、県域での学校デジタル基盤（校務支援システムと汎用クラウドツール）への参画も視野に入れつつ、教務・保健・学籍等に関する機能を中核としたクラウドベースのシステムで、API 連携機能等によるグループウェア等の一体的運用が可能な「次世代型校務支援システム」に関する検討を進める。

その他、校務の効率化・ペーパーレス化の阻害要因である FAX や押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの制定や、要録の電子保管等の課題についても、県域の事例を参考として検討を深める。